

立命館アジア太平洋大学 第5回 学長候補者選考委員会議事録

日時 : 2026年3月24日(火) 18時00分～19時01分

場所 : APU本部棟3階 第5会議室 (ZOOM接続あり)

委員 : 委員長 浅野 昭人 (副学長・常務理事)
 委員 陳 慶昌 (アジア太平洋学部 教授)
VYAS Utpal (アジア太平洋学部 准教授)
 柳 ボスル (国際経営学部 准教授)
 福山 公博 (国際経営学部 准教授)
四本 幸夫 (サステイナビリティ観光学部 教授)
 山根 友美 (サステイナビリティ観光学部 准教授)
JUNG Jonghee (言語教育センター 准教授)
鶴原 利泰 (教育開発・学修支援センター 准教授)
 日野 智志 (立命館アジア太平洋大学事務局 次長)
 金剛 理恵 (アウトリーチ・リサーチ・オフィス 課長補佐)
 寺井 俊裕 (アウトリーチ・リサーチ・オフィス 課長補佐)
 朴 勝優 (アカデミック・オフィス 課長補佐)
 眞次 純一 (校友)
UWINEZA CELINE (校友)
ABDULLAH Junaid (校友)
JHAASHMI (在校生 特命副学長)
 荒牧 順子 (APU 国内学生後援会)

選考管理委員 : 吉川 卓郎 (委員長)、ACKARADEJRUANGSRI P.、宮原 久実

事務局 : 井上 智香子 (立命館アジア太平洋大学事務局 副事務局長)、
 藤原 将人 (全学企画オフィス 課長)、小鶴 恭子 (全学企画オフィス 職員)

※ 下線は欠席者

(委員 18名、出席者 13名、委員会成立)

(議事録署名人 : 金剛 理恵、寺井 俊裕)

.....
【議題】

1. 第4回委員会の議事録承認

→承認。

2. 学長候補者の進め方 (その1)

浅野委員長より、学長候補者選考の進め方について説明があった。

(山根) 2次面接を対面で行うと現職の方の日程調整が難しく不利にならないか。
 1次面接の結果が出てから次の面接までにもう少し期間を空けた方がいいのではないか。

(浅野) 前回の学長候補者選考でも同様の意見が寄せられた。書類選考の後、面接選考に入る段階で2次面接の日程を事前に知らせる予定である。

資料①

- (山根) コロナや戦争など起きた場合には、選考日程は延期するのか。
- (浅野) 例えば災害が起こるなどした場合には、日程調整を改めて行う必要があると考えられる。ただ、選考スケジュールが後ろ倒しになれば最終的な決定が遅れることになる。
- (朴) 2次面接でAPU2030 チャレンジ・デザイン後半期計画について候補者の考えを尋ねるとのことだが、事前に候補者には知らせるのか。
- (浅野) 事前に知らせて事前準備をしていただく想定をしている。
- (朴) 2次面接の冒頭で現学長から、どのような想いでAPU2030 チャレンジ・デザインを牽引してきたか事前説明を行ってもいいのではないか。
- (浅野) 委員の皆さんの意見をいただきながら進めたい点であるが、現学長も自薦もしくは他薦で応募する可能性がある。その場合に、現学長の面接の時だけ別の方が説明をするという点が妥当なのかどうか検討する必要がある。
- (日野) 1次面接がオンラインで実施される点については私も賛成である。また、選考基準や評価基準については後日案が示されるということだが、評価のばらつきを防ぐためにも質問項目を共通にしたり評価シートを標準化したりすることを検討してはどうか。また、委員全員で面接選考を行うことは難しいため、面接官同士、選考委員同士での評価の共有方法について検討してほしい。スケジュールについて、書類選考から面接選考までの日程がタイトなので委員のスケジュールを事前に確認してはどうか。
- (浅野) 共通する質問項目を決めたいと考えている。候補者に共通する事項を質問したうえで、その後は自由に質問する方法をとりたいと考えている。共通する質問項目についても本委員会で確認予定である。面接選考の日程は公募締め切りや書類選考日程を勘案しても7月や8月になる想定である。面接選考日程についてヒアリングした内容を次回の委員会で提示予定である。また、1次面接と2次面接は基本的には同じ方をお願いしたいと考えている。そして、選考委員18名全員で面接は難しいため、ある程度人数を絞った方が良く考えている。次回相談したい点だが、面接をした委員だけが投票を行うのではなく、面接選考に参加した委員全員が投票権を持つのはどうかと考えている。なお、前回は、面接選考を欠席した場合投票権はないという形式をとった。
- (福山) 現在、AI技術が進んでいるため2次面接は対面必須で実施すべきである。
- (浅野) それは、2次面接は対面であり、1次面接は資料に記載のようにオンラインでも差し支えないということか。
- (福山) 1次面接はオンラインで構わないと考えている。
- (浅野) 書類選考についての提案だが、5月22日が公募締め切りである。そこから概ね3週間程度、委員全員で書類選考を行う。書類選考の基準については次回提案する。面接選考については、1次面接は遠方の方にも柔軟に対応できるようにオンラインで実施し、2次面接はオンキャンパス対面で実施する。面接を行う委員については次回議論したい。書類選考通過者には、1次面接および2次面接両方の日程を知らせることにする。

3. 時期学長候補者選考におけるサーチ会社の活用

浅野委員長よりサーチ会社の活用について説明があった。

- (山根) 今回のサーチ会社は成果連動型だが、本学に合致する候補者を推薦する保

資料①

証がどこにあるのか。

(浅野) 保証については、企業としては着手金だけで済むような仕事にはしたくなく、本学からも着手金に加えて成功報酬のフィーに関してもお支払いできるような方を推薦していただけるように要望している。

(山根) 今回の委員会資料1枚だけでは信用に値する企業なのか判断しかねる。また、過去には大学のエグゼクティブクラスの推薦実績があるというのは具体的にはどのような人だったのか。

(浅野) 個人情報に関わるため、具体的な人物までは把握できないが、中規模大学の副学長や部長クラスの教員の推薦実績があると聞いている。また、重大な個人情報に関わるためサーチ会社のホームページにも決定実績に関する情報は掲載されていない。今後、サーチ会社を活用し、候補者リストが提出されたら委員の皆さんにご覧いただきどの候補者に本学の公募について打診するか決定する。そのリストには経歴などが記載されている。

(日野) JREC-IN や THE などの媒体に加えてサーチ会社を活用する方向性に関してはおおむね賛成している。候補者の接触機会を広げるという点においては、我々の持つ人的ネットワークを活用して候補者になりうる可能性のある方に直接声をかける方法も検討できるのではないかと考えている。また今回は、成果連動型のため経済的な負担を低減できる点について、サーチ会社を活用するという意思決定上安心材料だと感じた。前回の課題を踏まえた改善がなされているため前向きに検討して良いと考えている。

(浅野) 多様な候補者に接触する機会になるため、サーチ会社に依頼することで進めることとする。

4. 2026年度学長候補者選考委員の確認

浅野委員長より、在校生特命副学長である JHAASHMI 委員の卒業に伴い、後任の委員を選出する旨について口頭説明があった。

5. その他

浅野委員長より、次回以降の委員会日程について、事務局からメールにて調整する旨を報告した。